

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 実用新案公報 (Y 2)

(11) 実用新案出願公告番号

実公平7-17102

(24) (44) 公告日 平成7年(1995)4月19日

(51) Int.Cl.⁶ 識別記号 庁内整理番号 F I 技術表示箇所
G 0 9 F 7/08 7610-5G

請求項の数1(全3頁)

(21) 出願番号 実願平4-10398
(22) 出願日 平成4年(1992)3月3日
(65) 公開番号 実開平6-59873
(43) 公開日 平成6年(1994)8月19日

(71) 出願人 592048110
安田火災海上保険株式会社
東京都新宿区西新宿1-26-1
(72) 考案者 中村 光男
埼玉県南埼玉郡白岡町西4-1-26
(74) 代理人 弁理士 宇高 克己

審査官 川崎 健

(56) 参考文献 実開 平4-8974 (J P, U)

(54) 【考案の名称】 表示装置

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 チップと、このチップが挟持されるボードとを具備した表示装置であって、前記ボードは、ベース材と、前記チップの幅より大幅な大開口部及び小開口部が構成され、かつ、前記大開口部及び/又は小開口部に対応して表示部が構成された表面材と、前記小開口部の側部に対応した位置に溝が構成され、前記小開口部の下部に対応した位置には掛止部が構成されるように前記ベース材と表面材との間に配設された中材とからなることを特徴とする表示装置。

【考案の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本考案は、例えば営業成績などを表示するための表示装置に関するものである。

【0002】

【考案の背景】 従来より、営業成績や達成目標等の表示に際して、個人の氏名が記入されたボードにヒストグラムを作成することが行われており、このヒストグラムにより社員は自己の現状成績を認識したり、達成目標の確認を行っている。ところで、方眼紙等にヒストグラムを作成するときには、インク等を用いた記入が行われるために表示を消して書き直すことが出来ず、一度使用されると後は廃棄されるのみであり、資源の浪費につながるという問題が有る。

10 【0003】 又、プラスチックのボードに水性マジックなどで書き込む場合でも、衣類がインクで汚されることも有るといった問題の外、作業性が悪いといった問題も有る。さらには、方眼紙やプラスチックボードに成績や達成目標を記入するといった成績表示方法は、方眼紙やプラスチックボードに直接に面した場合においてのみ視

覚に訴えるものにすぎず、目標を達成したときの満足感に乏しく、そして方眼紙やプラスチックボードから離れた場合には自己の成績に対する実感が無くなり、現況の把握が出来ない問題点があり、社員に成績向上を促す効果が乏しいといった問題点がある。

【0004】

【考案の開示】本考案は前記の問題点に鑑みてなされたものであり、本考案の目的は、繰り返しての使用が可能であり、かつ、現況の把握が常に行え、更には成績向上を促すための効果が高く、そして目標達成に対する高い満足感が得られる表示装置を提供することである。

【0005】この本考案の目的は、チップと、このチップが挟持されるボードとを具備した表示装置であって、前記ボードは、ベース材と、前記チップの幅より大幅な大開口部及び小開口部が構成され、かつ、前記大開口部及び/又は小開口部に対応して表示部が構成された表面材と、前記小開口部の側部に対応した位置に溝が構成され、前記小開口部の下部に対応した位置には掛止部が構成されるように前記ベース材と表面材との間に配設された中材とからなることを特徴とする表示装置によって達成される。

【0006】上記のように構成させることによって、チップの幅より大幅な大開口部から小開口部に対応してボードに構成されたベース材と表面材との間の空間部にチップを滑り込ませることが出来、これによりチップが何個ボードに挟持されているかでもって成績の表示が行え、そしてチップの取り出しが可能であるから何度でも繰り返しての使用が可能になる。

【0007】更には、チップは各個人に予め決まった個数が配布されているから何処に居る時でもチップの所持枚数を認識でき、従って何処にいる時でも、つまりボードの前に居ても離れて居ても現在の成績が即座に認識され、常に社員に成績向上を促す効果が奏される。又、目標達成時には、ボードを前にした時の視覚による目標達成の実感だけではなく、チップを手にすることから開放された触覚による目標達成の実感の両方でもって高い満足感が得られ、目標達成に対する高い満足感が得られるものである。

【0008】

【実施例】図1～図4は本考案に係る表示装置の一実施例を示すものであり、図1は表示装置の正面図、図2は図1におけるX-X線断面図、図3は図1におけるY-Y線断面図、図4はチップの斜視図である。各図中、Aは営業成績等を表示するための表示装置であり、この表示装置Aは円板状のチップ1（図4に示される如くの形状であり、厚紙を円板状に打ち抜いて作られたもの）と円板状のチップ1が挟持される紙製のボード2とより構成される。

【0009】3は厚紙製のベース材、4は厚みがチップ1の厚みと略同等の厚紙製の中材であり、中材4には矩

形状の長孔（幅a、長さb）5が複数、例えば7個形成されている。尚、この長孔5の幅aはチップ1の直径より僅かに大きい程度である。6は厚紙製の表面材であり、表面材6には長方形（幅a、長さc、 $a < c$ ）状の大開口部7と、この大開口部7につながって長方形（幅d（ $d < a$ ）、長さe（ $e + c = b$ ））状の小開口部8とが複数、例えば7個形成されている。

【0010】そして、ボード2は、図1～図3に示される如く、これらベース材3、中材4及び表面材6が順に積層されて構成され、しかも中材4の長孔5と表面材6の大開口部7及び小開口部8とが対応するように位置決めされて接合されているから、小開口部8の両側の位置にあってはベース材3と表面材6との間に溝9が構成され、チップ挟持部10が構成されるものとなる。尚、大開口部7に対応する部分から小開口部8に対応したチップ挟持部10の部分を移動させて行く際、即ち溝9の部分を滑らせてチップ1を移動させて行く時、チップ1とベース材3及び表面材5との間の摩擦抵抗が適度に有り、チップ1から手を離れたのではチップ1をチップ挟持部10の所定の位置までは挿入できないように構成されている。

【0011】11は小開口部8の下方位置に対応して表面材6の表面に設けられた表示部であり、各表示部11は樹脂コーティングされていて、何度でも氏名の記入・消去が出来るように構成されている。上記のように構成させた表示装置において、例えば営業成績（成約件数）の表示は次のように行われる。

【0012】まず、目標成約件数に応じて社員に所定枚数のチップ1の配布が行われている。そして、契約が成立すると、その社員は契約成立1件毎に自己の氏名が記入された表示部11に対応する大開口部7からチップ挟持部10に一枚ずつチップ1を滑り込ませて行く。これによって、即ちチップ挟持部10に挿入されたチップ1の枚数により営業成績（成約件数）の表示が行われる。

【0013】このような成績表示手段は、社員はチップ1の滑り込ませ作業に際して所持していたチップの減少を手の触覚を通して如実に実感出来、契約成立に際しての高い喜びと高い満足感が得られるようになる。そして、目標達成時には、ボードを前にした時の視覚による目標達成の実感だけではなく、チップを手にする事から開放された触覚による目標達成の実感の両方でもって、高い喜びと満足感が得られるようになる。

【0014】又、チップ1を月始めに目標件数に対応した枚数だけ所持するのであるから、表示装置の前に居るときだけでなく、何処に居てもチップの残りの枚数を具体的に、かつ、明確に確認でき、自己の現状成績が即座に判る。従って、チップの枚数がなかなか減少しない社員は、このチップによって叱咤激励が常になされるから、営業成績が向上するようになる。

【0015】尚、上記の実施例ではチップ挟持部10が

7個設けられた場合について説明したが、これは幾つ設けられていても良い。又、一つのチップ挟持部10に挟持されるチップ1の枚数は何枚でも良い。さらに、チップ1はプラスチックにより形成されたものでも良く、又、形状は如何なるものであっても良く、さらにはチップ1が各種の色に色分けされていても良い。

【0016】

【効果】本考案に係る表示装置は、チップと、このチップが挟持されるボードとを具備した表示装置であって、前記ボードは、ベース材と、前記チップの幅より大幅な大開口部及び小開口部が構成され、かつ、前記大開口部及びノ又は小開口部に対応して表示部が構成された表面材と、前記小開口部の側部に対応した位置に溝が構成され、前記小開口部の下部に対応した位置には掛止部が構成されるように前記ベース材と表面材との間に配設された中材とからなるので、チップの幅より大幅な大開口部から小開口部に対応してボードに構成されたベース材と表面材との間の空間部にチップを滑り込ませることが出来、これによりチップが何個ボードに挟持されているかをもって成績の表示が行え、そしてチップの取り出しが可能であるから何度でも繰り返しての使用が可能になり、資源の無駄使いが防止され、又、チップは各個人に予め決まった個数が配布されているから何処に居る時でもチップの所持枚数を認識でき、従ってボードの前に居ても離れて居ても現在の成績が即座に認識され、常*

*に社員に成績向上を促す効果が奏され、又、目標達成時には、ボードを前にした時の視覚による目標達成の実感だけではなく、チップを手にする事から開放された触覚による目標達成の実感の両方から高い喜びと満足感が得られ、目標達成に対する高い喜びと満足感が得られるといった特長を有する。

【図面の簡単な説明】

【図1】表示装置の正面図である。

【図2】図1中X-X線での断面図である。

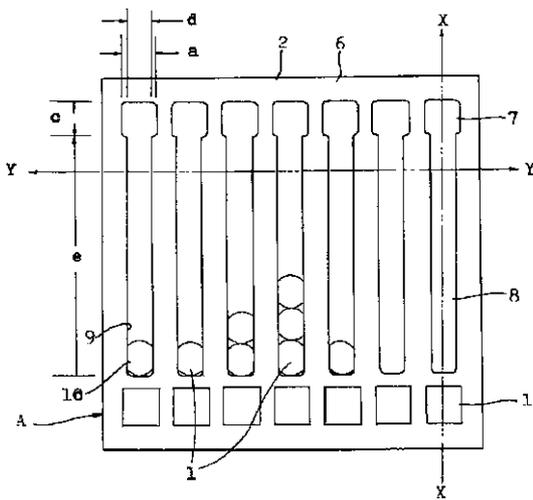
【図3】図1中Y-Y線での断面図である。

【図4】チップの斜視図である。

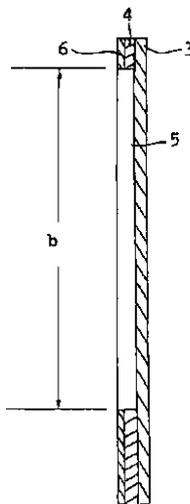
【符号の説明】

- A 表示装置
- 1 チップ
- 2 ボード
- 3 ベース材
- 4 中材
- 5 長孔(幅a、長さb)
- 6 表面材
- 7 大開口部(幅a、長さc)
- 8 小開口部(幅d、長さd)
- 9 溝
- 10 チップ挟持部
- 11 表示部

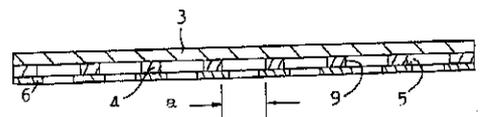
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

